

2022年9月22日

第4回の多職種によるアドバンス・ケア・プランニング（ACP）カンファレンスを担当しました。

今回は、60台男性で、末期腎不全の患者さんについてです。精神発達遅滞があり、内服コンプライアンスは不良です。末期腎不全に対して、保存的加療で経過をみられていましたが、腎機能は緩徐に悪化し、透析の準備（内シャント造設術）が必要な状態になりました。しかし、緊急時の血液透析実施に対しては同意を得たものの、内シャント造設術を受ける事を、頑なに拒否されました。看護師を含めて多職種で関わりましたが、御本人の意向は変わりませんでした。御家族への連絡も、拒否されました。最終的に、緊急透析が必要な状態で入院となり、その後内シャント造設術を受け、退院されました。

入院時に、御本人に、今まで透析の準備を拒否してきた理由を伺うと、透析に対する恐怖心があったことが分かりました。入院前の関わりでは、そのような、患者さんの真の思いを引き出す事ができませんでした。どのようにすれば、患者さんの思いを引き出す事ができたか、実際に担当したスタッフも含めて、カンファレンスで話し合いました。

患者さんの高齢化などに伴い、様々な複雑な背景を持った患者さんに、我々は関わっていく必要があります。それぞれの患者さんの背景を理解しながら、どうすれば患者さんの思いを引き出す事ができるか、これからもカンファレンスを通じて勉強していきたいと思えます。（文責：井上佑一）

